

神奈川県立保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 第1回 学校運営協議会及び学校評議員会		
開催日時	令和5年5月30日(火)		
開催場所	南学習室		
出席者	令和5年度保土ヶ谷支援学校 学校運営協議会委員 9名(本校校長を含む) 令和5年度保土ヶ谷養護学校 学校運営協議会事務局教職員 9名		
次回開催予定日	令和5年9月29日(金)		
問合せ先	神奈川県立保土ヶ谷支援学校 副校長 川島 結子 電話 045-714-0126 Fax 045-742-9716		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過			
<p>0 自己紹介、会長・副会長承認</p> <p>1 会長挨拶 今年度もよろしく申し上げます。</p> <p>2 学校長挨拶</p> <p>◆新型コロナウイルス感染症第5類移行に伴う変更・変化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスクの着用3月～個人の判断・教職員保護者には着用の協力、5月8日～着用について特に協力を求めることはしない。 ・健康観察表の廃止する一方で、丁寧な健康観察を行うこと、手洗い・換気等基本的な感染症対策を行う。 ・給食同時喫食開始、対面も可、黙食の制限なし。歯磨き指導開始、水泳指導の開始等⇒安全に配慮しながら実施していく。 ・高等部、両分教室の修学旅行について。関西方面。大きな問題なく実施できた。 ・校外活動 地域での活動は貴重な経験となると考える。 将来地域で生きがいを感じながら生活するために、児童生徒たちが地域を知ることは重要であるし、一方で地域の方々の、保土ヶ谷支援学校の子どもたちについての理解促進につなげたい。 <p>◆校名変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立特別支援学校は一部を除きすべて養護学校⇒支援学校に変更になった。 ・センター的機能の充実、校内での指導の充実等を図り「よりよくなった」と言われるよう変化できるとよい。 <p>◆在籍児童生徒 今年度は322名 県内で最多となる可能性が高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活気あふれる反面、設置基準から離れていくことが心配。 ・スクールバスや送迎車による渋滞問題等、地域に関わる問題も解決していきたい。 			

3 出席者及び会成立の確認（事務局） 副校長

- ・ 9名出席、会は成立

4 資料確認、流れ説明（事務局） 副校長

- ・ **資料1** 運営要項：変更点としては校名「養護学校」⇒「支援学校」のみ。
- ・ 本日の流れは資料のとおり、この後は渡部会長に進行をお任せする。

5 議題（報告・説明）

①令和4年度施設等整備実績報告**資料3**事務長

- ・ 県費 昨年と比較して増えた。老朽物品、教育用備品の整備を今年度行う予定。
- ・ 横浜平沼分教室R4年度工事、舞岡はR5に職員室・保健室の間に壁設置工事を行う。
- ・ 令和5年度 国庫コロナ対策予算は換気対策等備品中心に予算が下りている。一部、アルコール等消耗品購入の枠に変更することができる。

②令和5年度学校運営協議会運営計画

◆「学校評価部会」活動計画**資料4**副校長

- ・ 資料のとおり紹介

◆「切れ目ない支援部会」活動計画**資料5**教頭

- ・ 資料のとおり紹介
- ・ 交流の内容は、単純にコロナ前に戻すのではなく、よりニーズに合ったものにしていきたい。

◆「農園活用部会」活動計画**資料6**教頭

- ・ 横浜市スポーツ協会秋田様⇒竹ノ内様にご担当が変わった。
- ・ アドバイスをいただいて今年度も進めていく。
- ・ 昨年度の反省を生かし、職員会議等を利用して職員に発信していている。
- ・ 地域のイベントにも参加し、活動内容をPRしていきたい。

③令和5年度学校目標**資料7**学校長

◆グランドデザイン

- ・ 資料のとおり R2年度に示されたミッションをもとに学校教育目標を示した。
- ・ 今年度4年計画のラストイヤー
- ・ アセスメントについて、計画にとどまらず教育活動に生かし、子どもたちには少し難しいことにも前向きに取り組んでいけるようになってほしいと考えている。
- ・ ④の「地域との協働」について、地域を支援するために、支援する側の教員の養成を行うことも重要。知識と実践の積み重ねでスキルアップできるようにしたい。
- ・ 多様な教育的ニーズに応えるための教育計画
- ・ 防災：地震が増えている。昨日は職員対象の防災研修を実施した。
防災教育の体系化を今年度行っていく。

- ・ヒヤリハットを共有
- ・働き方改革 教育活動に集中するための校務効率化と「やりがい第一主義」
- ・計画を元に未来をみなさんで考えていきたい。

◆学校評価(目標設定)資料8 資料9

- ・各学部、グループより 資料10 年間目標 中心課題として取り組む内容をマトリクスで示している。

◆各学部・グループより

<小学部> (教頭)

- ・人権：「さん」付呼称 継続して取り組む。
- ・業務の効率化 会議の持ち方を工夫し、授業準備や児童に関わる業務の時間を増やす。

<中学部> (中学部リーダー)

- ・防災教育：防災センター見学等も組み込み、実践内容を整理して計画、体系化する。
- ・アセスメント：今週、支援室の協力で「太田ステージ」勉強会を行う予定。
⇒6月～7月に実施し、後期個別教育計画に反映させる。
- ・交流：境木中学校との対面交流を計画している。7月の作業学習での交流等、学期に1回ずつ実施する予定。
- ・12月自治会館クリスマスツリーの飾りつけを行っている。
- ・今年度は発信も行っていきたい。

<高等部> (教頭)

- ・アセスメントの実施：1年生太田ステージ、3年生実態に応じたアセスメント、専門職と連携して行っていく。
- ・学校運営「これは違うのではないか」「改善できるのではないか」という教員個々の気づきを取り上げて効率化につなげたい。

<舞岡> (教頭)

- ・シラバスの確認と修正
- ・分教室版「進路の手引き」共通認識を持って行う。

<横浜平沼> (教頭)

- ・今年度日課表を変更し、職業を週2回、合計1日半とした。
実態・ニーズに合っているかを検証していく。

<管理運営グループ> (管理運営GL)

- ・防災教育の体系化に向けて「防災教育全体計画表」を各学部と連携して作成する。
- ・学習環境の整備として、机・椅子の数を調査しデータベース化、活用。不足分について購入計画を立てる。
- ・不祥事・事故防止として、過去の事件事例と対応策を共有、遵守する。
- ・校務の効率化、表計算ソフトの機能を活用、整理できる業務のアイデア等挙がっているものを検討、実施。

<教育企画グループ> (教育企画GL)

- ・「教科指導内容表」年間授業計画書式の統一

⇒他学部との比較も行えるようになる。

- ・指導要録の電子化を進める。
- ・人権研修会 8月に外部講師を招聘して実施予定。
- ・校務の効率化 各班で進める。

<教育支援グループ> (教育支援GL)

- ・アセスメントによる課題分析力の向上を図る。
分教室含め摂食指導アセスメントを行う。(事故防止とも密接に関連)
- ・情報発信力の強化 ホームページ更新頻度を上げ、レイアウトを改善して新しい情報が届きやすいようにする。
- ・校務効率化 大変な部分を聞き取って整理、アイデア出しを評価、マニュアルを改訂、必要な部分を残し、不要な部分を削る。

<連携支援グループ> (連携支援GL)

- ・地域等との連携：近隣小中学校の教員向けに「特別支援学校の授業を体験しよう」を開催する。小学部図工、中学部音楽、高等部消費者教育の授業を参観することで、支援方法やアイデアを知る機会を提供。
- ・支援日よりホームページへの掲載、授業案や教材のデータベース化

◆質疑応答

Q(A委員)

- ・教育支援G「食のアセスメント」について詳しく聞きたい。 食事の指導 「丸のみ」の改善等安全に食事をする⇒マナーにも通じると考える。

A(教育支援GL)

- ・同じ丸のみでも障害種によって原因・課題・リスクレベルが異なる。必ずしも「ゆっくり食べる」という指導になるわけではない。アセスメントシートを使って「見る視点」を学び、ニーズに応じた指導を行えるようにする。課題に気付くと、他の教科、例えば家庭科での「会食」楽しく食べるという指導を行うにあたって、アセスメントシートを活用できる。

Q(会長)SBの安全対策について

A(管理運営GL)

- ・バス置き去り事故対策に関して言えば、乗車名簿の下欄にすべての児童生徒が下車したかの降車確認欄を追加している。介助員を中心に、コロナ対策のための消毒作業・忘れ物チェックとともに全員の降車確認をしている。

A(事務長)

- ・6月末を目途に車内に確認するための機械を入れる予定である。

意見 (B委員)

- ・光陵高校においても支援教育が必要となる場面があり、巡回相談の機会を活用できたことがありがたかった。
障害理解、支援教育についてのノウハウの共有を、今年度も引き続きお願いしたい。
- ・「教職基礎演習」今年度も20名ほどお願いしたいと考えている。

A(連携支援GL)

- ・巡回相談では、光陵高校も事前に対象ケースについて丁寧に確認し、スクールカウンセラーの意見も聞いて整理する等準備していた。担任が抱え込むのではなくチームで当たっていることが良いと感じた。
- ・「教職基礎演習」光陵生からは新鮮な視点の意見をもらうことができた。本校児童生徒とのかわりが良い影響もあった。

A(校長)

- ・教員採用試験の倍率が低くなっている、教員の魅力をどこかで感じてほしい、将来教員になりたいと希望する子どもが増えてほしいと考えている。
- ・本校も教員不足のところ、地域にチラシを掲示することで応募があった。これからも発信していきたい。

Q(C委員)

- ・ホームページ コンテンツの充実の先に目指すものは？
- ・PTAも同じ課題に直面している。PTA活動は任意であるが、やってみたら楽しいという内容をアピールするためにPTAのホームページを設置した。
- ・アクセス数を増やせばよいかというだけではない。アクセスの内容分析⇒コンテンツ内容の精選などが必要となる。

A(教育支援GL)

- ・ポイントのひとつとしては「保護者に見てもらえるホームページ」。
- 学校の教育活動の理解促進に資する内容を発信していきたい。
- 現在システムとしてアクセスカウンターがない。
- (会長)「充実した先に何があるか」を考えながら整備する。

6 議題(報告・説明)

(会長) 重点課題「就労支援、進路支援の充実」をテーマに協議を進めたい

(学校長)

- ・就労率で言うと、ここのところ下がっている。高分ともに抱えている課題。
- ・子どもたちが安心して進路先に進むには、在校中からさまざまな経験を積むことが重要である。ここ数年は「経験を積む」ことは新型コロナウイルス感染症対策の関係で制限があった。よりよく地域の中で生活していくためのご意見をいただきたい。

(会長)

- ・「キャリア教育」に関わってくる内容でもある。学校評議員として、副会長、A委員がいらっしやるのは強みである。

(副会長)

- ・法定雇用率について2.7%に設定される。令和5年度は2.3%、令和6年度から2.5%、令和8年度から2.7%と段階的に引き上げられる。

- ・神奈川県就労率は34%から24% 一方、東京都は44%程度。「神奈川に生まれたから就職できない」というのはおかしい。自分を含む関係者が頑張っていかなければならないと考える。保護者支援も必要。ノウハウを増やしたい。今年、実践していきたいと考えている。「全国障害者雇用事業所協会」理事・会長が学校評議員会に名を連ねているので、ぜひ”利用”してほしい。

(B委員)

- ・就労率とは、就労希望者に対する割合か？

(会長)

- ・全てのこどもが就労を目指している。20%強。以前は上昇傾向であったが、現在は苦戦中。

(A委員)

- ・かつて神奈川県においては、横浜市立より県立学校の方が高く、就労を目指して県立養護を希望する生徒もいた。
- ・「チャレンジ」就労目指して教育を行う。
- ・定年まで勤める方もある、就労して明るくなったという方もいる。
- ・一般企業、特例、A型…実習を受けることは可能、実習をしながら自分の希望するところへ進んでいけたらよい。

(D委員)

- ・防災訓練を自治会で行っている。今年も実施予定。保土ケ谷の教職員参考にしてほしい。10月の日曜日、境木小学校の校庭と体育館を使用して行う予定。どのようなものを使って、どのように動くか見てほしい。
- ・非常勤講師募集について、チラシをまいて応募があったとのこと、地域で協力できることがあれば行っていきたい。

(E委員)

- ・就労しない生徒というのは就労の意欲がないということか？
- ・就労率の算出には非正規雇用は含まれていないのか？

(副会長)

- ・就労率は正社員・契約社員を含めた数。
- ・問題視しているのは「下がっていること」
- ・低下の理由、私見としては「コロナで実習が十分にできない。求人は増えているが、保護者が就労支援事業所で勉強してからの就労を望むケースが多い。東京はそうではない。」

(E委員)

- ・保護者への説明はどのように？特別支援学級・特別支援学校に進むと就職できないのではと心配する保護者もいる。一方で、「まだ小学生だから」という意識も強い。

(B委員)

- ・インクルーシブ推進校勤務時代、「なぜこの学校を選んだか」と聞くと、就労を見据えてインクルーシブ学校を選んだという答えがあった。

(F委員)

- ・(GLUP 株式会社)の第三者委員をしている。
- ・統合失調症の方のかかわりについて支援会議を持ったことがあるが、結局、その方は転職した。就職活動中に、より適性のある進路を紹介することはできないかと考える。

(副会長)

- ・適性に応じた進路指導、引き続き丁寧に行っていかななくてはならない。

(会長)

- ・「チャレンジ」していくために、より協議を進めていかななくてはならない。
- ・A委員、副会長に助力をいただきつつ進めたい。地域との協働についても充実をさせたい。計画的に行うために、運営計画に基づき、各部会の取り組みと同時に進路指導・地域との協働を行っていく。

7 事務連絡(副校長)

- ・今後の学校評議員会、各部会について、日程調整ご相談する。

(教頭)

- ・チャレンジする教育の一環として、今年度「企業と語ろう in 保土ヶ谷」会場は横浜平沼高校
- ・校長会と雇用部会のタイアップで行う、小中の保護者も参加
- ・指導の先を考える上で貴重な機会となることと思う。

8 副会長挨拶

- ・今回は計画を中心の会。全体として意欲的で、グループリーダーの発表等は聞いているだけでウキウキしてくるぐらいだった。
- ・協議も活発、良い意見を伺えた。非常にレベルが高いと感じた。
- ・2時間の設定がよいかも。午前中ではおさまらない。

9 会長挨拶

- ・会議の内容を圧縮していかななくてはならない。議論・意見交換に時間が割けると良い。

～本会において、各内容が承認された～